次世代つなぐ 116

しゃんぎり保存会会長

屋台の有志が「田島祇園囃

南会津の小椋さん

いきたい」と太鼓をたたく 文化を次の世代につないで 椋勝郎さん(8)は「地域の 保存会」で会長を務める小

奏でる「しゃんぎり」演奏 俗文化財「会津田島祇園祭」 では、笛や太鼓、三味線で ている。「田島しゃんぎり が伝統的な雰囲気を演出し 南会津町の国重要無形民

鼓の「素人」だった小椋さ

活に向けて動き出した。太 人と一緒に、しゃんぎり復 したかった」と振り返る。 りは地域の文化財。何とか 町役場を退職後、有志数

という。小椋さんは「盛り

していきたい」と強調する。 る。「チームワークを意識

保存会は3世代にわた

プで対応した時期もあった 不足などのため、録音テー 守ってきた。一方で後継者

子保存会」を設立、伝統を

世代を超え一つに

上がりに欠けた。しゃんぎ 今は高校を卒業して町外に 取り組んでいる。 出たメンバーが、帰省した 際に演奏できる環境整備に しゃんぎりは田島地域の

たものとされている。「全 季節の移ろいを音で表現し んぎりを通じて郷土愛を育 園祭を盛り上げたい。しゃ 員で一つの音にして田島祇 んでいく」と力を込める。

地域の文化財守る

祇園祭の風物詩として継承 の幕あいに演奏され、田島 されてきた。昭和初期には、 ことで、子どものメンバー の練習に汗を流している。 めて44人となり、月に数回 も増えた。現在は大人も含 特別公演や地域イベントで も演奏できるようになった し行器行列、屋台歌舞伎の

> 「しゃんぎり演 奏を通じて郷土 愛を育みたい」

と話す小椋さん

▲ 9月24日 福島民友新聞掲載	lack	9月	24日	福島民友新聞掲	載
------------------	------	----	-----	---------	---

も広げた。田島祇園祭のオ の養成が必要」と活動の場

ープニングセレモニーや

来につなぐためには子ども わりながら腕を磨いた。「未 んは、高齢の経験者から教

小椋さんが、「しゃんぎり」復活に向け、動き出したのはどのようなことからですか?
小椋さんは、どのようにして太鼓演奏の腕をみがき、「しゃんぎり」復活に向けてどんな活動の場を広げてきましたか?
田島祇園祭は、どのような祭りなのか、調べ、まとめてみましょう。また、田島の音である「しゃんぎり」の演奏
を、ネットの動画で視聴してみましょう。